



大分市立  
鴛野小学校  
学校だより

# 鴛野小通信

令和2年  
12月16日(水)  
NO. 32  
発行者：板井勝博



## 3年生見学遠足

見学遠足当日の12月10日は素晴らしい天気恵まれました。真っ青な空にうろこ雲が浮かび、絶好の見学遠足日和でした。



救急車の説明を聞く3年生

最初の見学地は、大分市南消防署です。例年であれば署内も見せてもらえるそうですが、今年には新型コロナウイルス感染予防のため、署外の見学に限定されていました。

まずは、高所からの降下訓練の様子を見学。ロープをつたって滑るようにオレンジ色の隊員が降りてきます。「おー」という歓声と自然と起こる拍手。その後は2班に別れ、消防車、救急車、特殊車両の説明を受けました。はしご車のバケットに乗っての記念撮影（全員）や消防隊員の制服を着ての撮影（全員）もさせてくれました。

車両の説明を受けているとき、マイクによる放送が聞こえてきました。すると、消防隊員の表情が、それまでの優しそうなお顔からサッと引き締まった表情に変わりました。「ここにすわって動かないように！！」。署の様子が一気に緊張した様子に変わりました。火事の通報があったのです。すぐに消防車が4、5台出動して行きました。署の方によると、見学中に出動することはあまりないとのこと。幸い、すぐに帰ってきましたので誤報だったようです。安心しました。

貴重な体験をさせてくれた消防署の方にお礼を言い、七瀬川自然公園に向かいました。風もなく素晴らしい天気。ここで消防署見学のまとめをした後にお弁当を食べました。



出動する消防車（空に浮かぶ、うろこ雲にも注目！）



記憶の新たな内に消防署の記録 その後、お弁当です

午後の見学は大分市歴史資料館。こちらでもコロナ感染対策で体験活動は、昔の農機具体験と昭和の道具体験の二つに絞られていました。昭和36年生まれの私は、田舎の農家生まれですので展示されている農機具、家財道具、家電のほとんどがわかりました。子どもたちにとっては見たことがないものばかりで、新鮮な驚きを感じていたようでした。

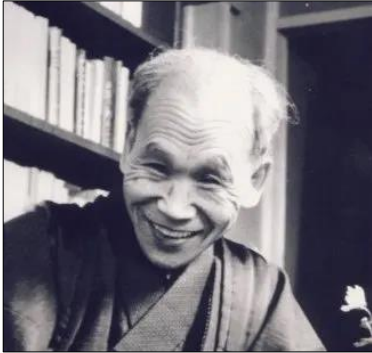


\* コロナ禍の中でも何とか例年と同様の体験をさせてやりたいと感染予防に配慮しながら進めてきた鴛野小学校の校外体験活動も、この3年生の見学遠足で無事に終えることができました。

# 改めて振り返る「くつをそろえる・イスを入れる」習慣づくり

激動の2020年も残すところわずかということ  
で本号では4月当初より（実際には6月当初）取  
り組んでいる2つの習慣づくり「くつをそろえ  
る・イスを入れる」について考えてみます。

そもそも、この2つの習慣は森信三先生の「し  
つけの三原則」からきています。森信三先生は  
日本の哲学者・教育者です。（「しんぞう」は通称  
で本来の読みは「のぶぞう」とのこと。）著作も数多く、  
「人生、二度なし」などの名言も多く残してお  
られます。



←  
森信三先生

さて、「しつけの三原則」は次の3つです。

- ・朝、必ず親にあいさつすること
- ・親から呼ばれたら必ず「ハイ」と返事をする  
こと
- ・はきものを脱いだら必ずそろえ、席を立った  
ら必ずイスを入れること

鴛野小学校では、しつけの三原則の「くつを  
そろえる」を数年前から実践していたようです。  
私は、靴箱のくつがピシッとそろっているのに  
驚き、鴛野小通信NO.2（4月27日号）に感想を  
書きました。このようなことは一朝一夕にでき  
ることはありません。きっと、数年の積み重  
ねがあったからこそだと思います。私たちは先  
輩の先生方が創りあげてくれた鴛野小学校の伝  
統を堅持していかなければなりません。このよ  
うな習慣はもろいものですぐに壊れてしまうか  
らです。そして、今年、「イスを入れる」とい  
う新たな目標を追加したのです。

「しつけの三原則」というのは本当に効果  
があるものなのでしょうか。エビデンス（科学的  
根拠）があるかどうか、私にはわかりません。  
しかし、教育界では、有名であり、取り組むべ  
き意義があるものだと思います。例えば、次に  
紹介する文を読んでみてください。

「『しつけ』とは何をするのでしょうか」と、教  
師の研究会で尋ねると、バラバラの意見が出て  
きます。人それぞれに思いつきを言うのです。

教育の世界では、もう五十年も前に結論が出  
ています。

京都大学出身の哲学者で教育学者であった森  
信三先生が、「しつけとは、三つのことを教え  
ること」だと、明確に示したのです。

三つとは、「返事」と「あいさつ」と「靴の  
始末」です。これが基本であり、これさえやれ  
ば、他のことはできるようになると論じました。

（ 中略…板井 ）

大田区の田園調布中学校は、いまから二十年  
以上も昔に「一つだけの目標」を決めました。  
「席を立つとき、イスを戻す」という目標です。

田園調布中学校といえば、そこそこにしつけ  
のできた子が集まる学校です。「そんな学校で  
なぜ、こんなつまらない目標を」と思う人もい  
るでしょう。しかし、私は、逆に、その当時の  
田園調布中学校の先生方の見識に敬意を表しま  
した。

これは基本的であり、本質的な問題だからで  
す。そして、達成することも、なかなか困難な  
目標なのです。「イスを戻す」という簡単なこ  
とができるようになるのに、田園調布中学校で  
はどのくらいの期間がかかったかが、それを証  
明しています。一年ちょっとかかったといいま  
す。しつけができた子が集まる学校で、かつ学  
校じゅうで取り組んで、しかも目標を一つにし  
ばっても、これだけかかるものなのです。

では、「イスを戻す」ことができるように  
なった生徒はどう変わったのか。この当時の田  
園調布中学校の学力は、東京都でもトップでし  
た。それだけでなく、スポーツにおいてもトップ  
クラスの成績を残しているのです。

鴛野小の伝統として根付くには数年かかるか  
もしれません。しかし、まずは取り組み始める  
ことです。学校と家庭の両方で歩調を合わせ指  
導していくと効果があると  
思います。どうか、ご協力を  
お願いします。

\* 枠内の文章は『心を育てる家庭学習法』  
（向山洋一著）よりの引用です。1999年  
発行の本ですので文章内に出て来る年数  
は20年くらいプラスしてください。）

